



特別  
インタビュー

# 天文・宇宙への関心を育む

漫画家  
今井哲也

©今井哲也・講談社/  
2022「ぼくらのよあけ」製作委員会

宇宙開発やイノベーションと日常生活が近接していく昨今、未来を生み出していくために、フィクションの力やクリエイティブティビティの重要性がますます高まっています。2022年に劇場アニメーション化される漫画『ぼくらのよあけ』（講談社）で「身近な宇宙」を描いた漫画家・今井哲也氏に、人間の想像力や未来を描く力、それが読者や世の中にも与える影響について聞いた。

## 最新技術が生活に 浸透した近未来を描く

——宇宙をテーマにしたフィクションの中で、今井さんが影響を受けた作品はありますか。

今井 『ぼくらのよあけ』に限らず、手塚治虫や藤子・F・不二雄の作品には、影響を受けました。具体的には例えば「宇宙」というテーマに関して言うと幼少期に読んだ『21エモン』（藤子・F・不二雄）、本作の直接的なヒントになった映画『2001年宇宙の旅』や『宇宙ショーへようこそ』などです。

——宇宙をテーマにしたフィクションの系譜において、本作がどのように位置付けられるか、ご自身で分析することはありますか。

今井 当初のアイデアは、廃ビルを基地にする子どもたちが、そこに隠された宝物を狙う大人たちと戦う冒険物語でした。当時

テレビドラマで見ていた『のんのんばあとオレ』や『時をかける少女』のような雰囲気やベースにアイデアを膨らませるうちに、「宇宙」という要素を新たに追加しようと思いました。当時一緒にネタを考えてくれた友人によると、本作に登場する「向こうの星」のアイデアは、『ブラッド・ミュージック』に影響を受けたそうです。

——衛星基盤やAIなど、作品発表時には社会実装が進んでいなかった技術が徐々に現実化しています。近未来を描く楽しさや難しさは、制作中に感じましたか。

今井 作中に登場する未来技術は、当時影

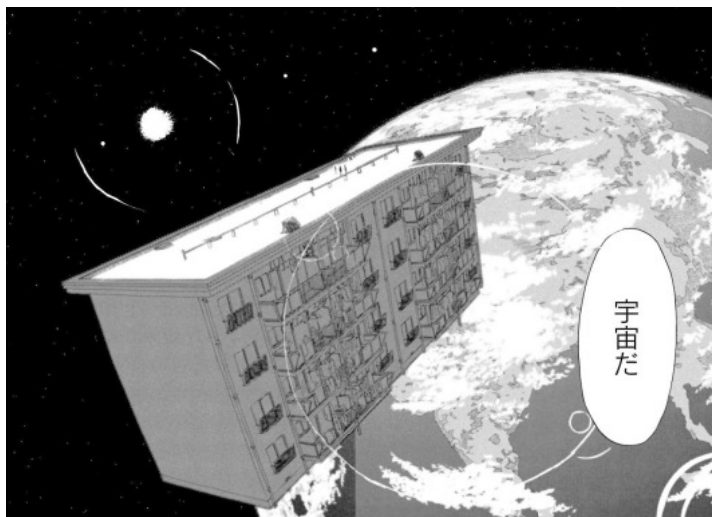
も形もなかったものではなく、既に研究が進んでいた最新技術を意識して描いていました。今は技術進歩のスピードが速いため、近未来を描く間に陳腐化しかねないのが難しい点です。またコロナ禍など予想しなかったことも多々起こります。

ほんやり想像したものより現実として登場したの方がはるかに面白いので、今後近未来を描く場合も、その時点での最新技術や研究を調べて登場人物の生活に落とし込むというアプローチは変わらないと思います。数年後にその技術が安価で入手できるようになったら、結果的に「この漫画は未来を予見していた」と捉えてもらえるかもしれません。

### ——今の時代だからこそ再発見できること

——本作が団地を舞台にした理由を伺えますか。

今井 当初の企画段階から、廃ビルのような限られたエリアが舞台イメージでした。僕自身が教職員住宅で子ども時代を過ごしてい



たので、団地だとイメージが膨らみやすかったことも理由です。また、団地自体が絵になります。縦に伸びる高層ビルやマンションも良いのですが、いわゆる団地タイプの建物は横方向に展開があり、今あらためて見ると、そこが格好いいのかもしれない。本作でモデルにした団地は阿佐ヶ谷住宅です。広すぎず、建物が斜めに並んでいたりブロックご

とに違う形をしていたりと画一的ではないため、小学生が登場した時にさまざま画面を作りやすいと思いました。

——本作では、子どもの世界の閉鎖性や人間関係のもつれが重要なテーマとして描かれています。ウイズコロナの閉塞感など、今の時代に作品から再発見できる要素はありますか。

今井 作中では、人間関係のすれ違いを対面でのコミュニケーションで解決しようとする姿を描きました。コロナ禍では直接会うこと自体が封じられているので、作品で描かれたことを今の時代に当てはめて読めるかどうかはよく分かりません。ただ、読者の方から思いもよらない感想をいただけるのは楽しいです。



## 新しいものを知り価値観を更新する

——『ぼくらのよあけ』は2022年に劇場アニメーション化されます。読者・視聴者の宇宙への関心醸成で心がけていることはありますか。

**今井** 読者に何か訴えたいというよりは、ただ楽しく読んでいただくことを第一に、いろいろなアイデアを詰め込んでいます。結果的に、宇宙に興味を持つ方がいたらうれしいですね。



アニメーション化にあたり、宇宙の描写や科学的な考証の面で専門スタッフの方に監修いただいています。アニメで初めて作品を知る方にも、あらためて宇宙を描いた映画として楽しんでもらえたら幸いです。

——かつての手塚治虫や藤

子・F・不二雄の頃の読者層と比較すると、今の読者が生きる時代はイノベーションが実生活の中で実現していく速度が段違いです。読者の感触や世代差を意識することはありますか。

**今井** 例えば誰もがスマートフォンを持ち、複数人で気軽にリモート形式で話せたりするといった変化は、いざ実現して「こなつたんだ」と驚くことの連続です。ただ、作中にそれらが取り入れられていないので古くさいかという点と意外とそうではなく、読者は作中の登場人物の視点で読んでいます。だからこそ昔のSF作品を読んでも面白いですし、長年人気を保っている漫画も珍しくありません。

電子書籍やウェブ漫画によって読者層が広がったのは、イノベーションの利点ですね。作家として常に心がけているのは、時代に合わせて価値観を更新し、手癖に頼らないことです。そのためにも、新しいものを知ろうとし続けるのが重要だと思っています。

——本日はありがとうございました。

### ぼくらのよあけ(全2巻)

著：今井哲也  
出版社：講談社

【あらすじ】舞台は近未来の東京。阿佐ヶ谷住宅に住む宇宙好きの小学生・沢渡悠真は、間もなく地球に大接近するという彗星に夢中になっていた。そんなある日、悠真たちは「二月の黎明号」と名乗る宇宙から来た未知の存在と出会う。人工知能を搭載した家庭用オートボット・ナナコをハッキングしたその存在は、地球に降下した際に大気圏突入時のトラブルで故障、宇宙へ帰れなくなったという。団地1棟に擬態し、長い年月休眠状態だったそれを宇宙へ帰すべく、子どもたちのひと夏の極秘ミッションが始まった。



### 劇場アニメ ぼくらのよあけ

10月21日(金) 全国公開

#### STAFF

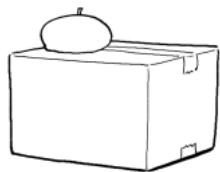
原作：今井哲也「ぼくらのよあけ」  
(講談社「月刊アフタヌーン」刊)  
監督：黒川智之  
脚本：佐藤 大

#### CAST

杉咲花 (沢渡悠真役)  
悠木碧 (ナナコ役)

#### 主題歌：三浦大知「いつしか」

©今井哲也・講談社/  
2022「ぼくらのよあけ」製作委員会



### 漫画家 いまい てつや 今井 哲也

千葉県船橋市出身。月刊『アフタヌーン』（講談社）2005年冬の四季大賞を「トラベラー」で受賞してデビュー。ほかの作品に『ハックス!』（講談社）、『アリスと蔵六』（徳間書店）などがある。『ぼくらのよあけ』は2012年の星雲賞コミック部門で参考候補作に選出された。